

事例名

ブラジル国における衛星レーダ技術を使った 違法伐採低減への貢献

受賞者

一般財団法人 リモート・センシング技術センター

小野 誠 氏



事例の概要

受賞者は、ブラジルアマゾン域において森林違法伐採取り締まりに取り組んでいるブラジル環境・再生可能天然資源院（IBAMA）とブラジル連邦警察（DPF）等と連携し、我が国の衛星「だいち（ALOS）」の合成開口レーダ（PALSAR）画像を用いて定期的な森林監視を行い、違法伐採の減少に貢献した。その成果に関し、COP18においてブラジル大統領等により違法伐採の減少について言及され、後継の衛星「だいち2号（ALOS-2）」の利用も期待されている。

ポイント・具体的成果等

1. 市場拡大への貢献

PALSAR画像を用いた違法伐採監視について、他の南米地域、アジア及びアフリカの地域に展開する素地を作った。また、だいち以降の衛星に対応した後進の指導も行い、持続的な活動に貢献した。

2. 産業、生活、行政の高度化及び効率化への貢献

ブラジル政府によるアマゾン熱帯雨林の保全是、一定の効果があったが、雨季に違法伐採が行われることなどによって、違法伐採面積は2008年に再び増加した。JICA技術協力プロジェクトによって、雨天でも監視可能なだいちの画像の解析技術導入を支援し、IBAMAの森林資源管理と森林違法伐採取り締まり、及びDPFによる違法伐採木材取引防止に効果を発揮した。違法伐採面積は、プロジェクト期間（2009年～2011年）で大きく低減した。2013年以降、ALOS運用停止等の影響もあり、低減効果が弱まっている。

3. 技術への貢献

受賞者はPALSAR画像から森林伐採地を抽出する手法を開発した。また、PALSAR画像や他のシステムで利用可能な地理空間情報をDPFが利用できるような技術指導を行った。

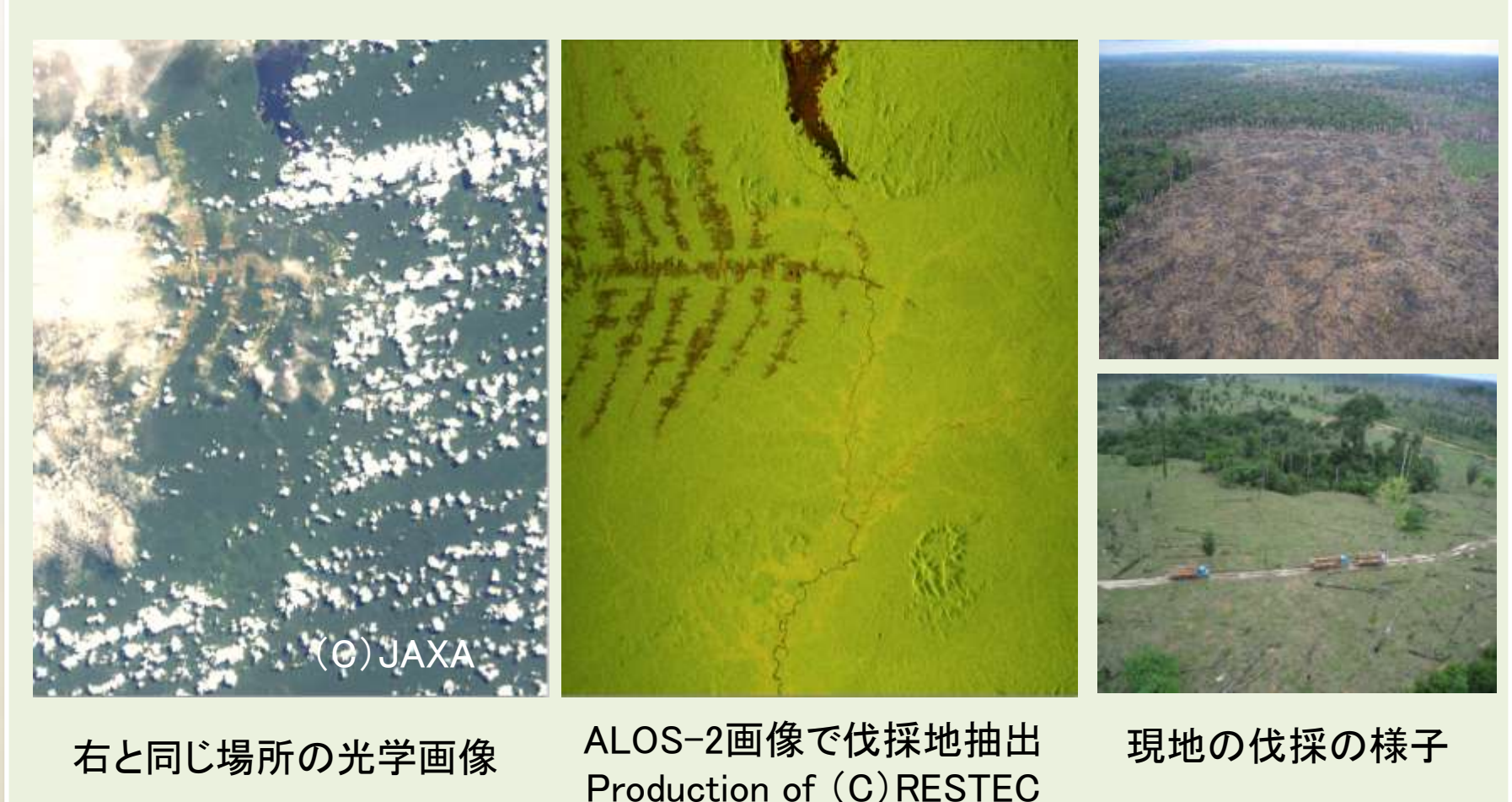
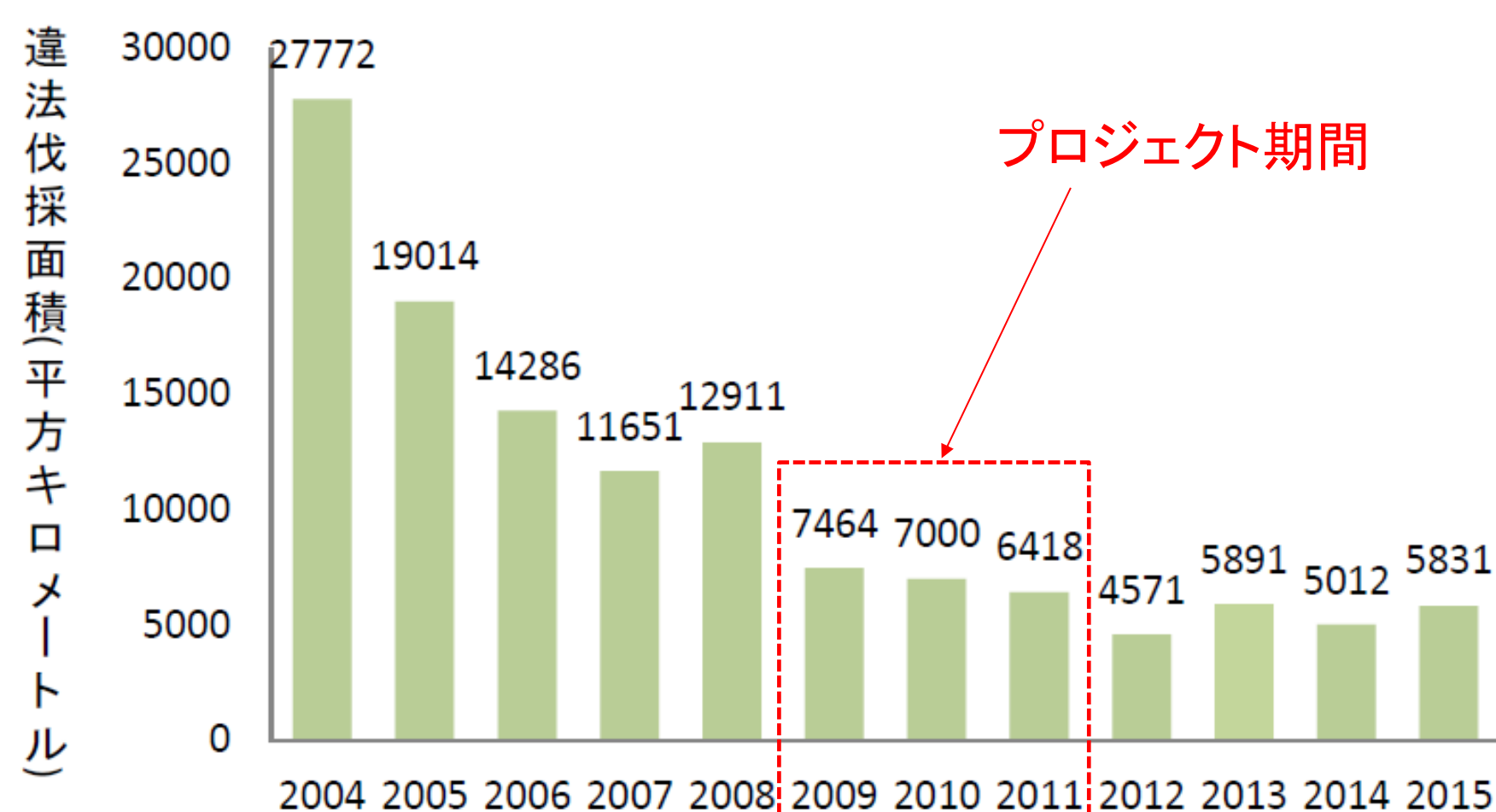


技術指導の様子

4. 普及啓発への貢献

- ・2012年1月27日、東京・元赤坂の秋篠宮邸にて秋篠宮同妃両殿下に謁見。
- ・多数メディアで紹介。

テレビ朝日「報道ステーション」
イギリスBBC「アマゾン-宇宙からの監視計画-」
朝日新聞2013年6月6日朝刊
ブラジル現地紙等



問合せ先

一般財団法人 リモート・センシング技術センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-17-1 TOKYU REIT 虎ノ門ビル3階

03-6435-6700 (代表) <https://www.restec.or.jp/>